

Injury Alert (傷害速報)類似事例

縦滑り出し窓からの墜落による頭部・顔面外傷（No.131 網戸からの墜落による頭部・顔面外傷、上肢骨折の類似事例 1）㊦

事例	基本情報	年齢：2 歳 7 か月 性別：男児 体重：14.8kg 身長：95.5cm
	家族構成	父、母、本児
	発達・既往歴	健診での明確な指摘はないが、両親からみて落ち着きがないように見えることが多かった。
臨床診断名		左脳挫傷、気脳症、左前頭骨骨折、眼窩骨折
医 療 費		入院 593,430 円
原因対象	対象名称	縦滑り出し窓の二重ロック
	入手経路 使用状況	賃貸アパートの設備として元々備え付けられていた。 リビングの縦滑り出し窓には落下防止のために 2 本の棒が設置されていたが、窓横にソファがあり、普段から児が窓に触れる環境であった。本児は棒にぶら下がることを繰り返していた。窓の二重ロック（縦フレーム側の取手式開閉ハンドル＋スライド式ロック）を設置していたが、本児は普段から二重ロックを触っていた。両親は本児が操作しないよう度々注意していたが、事故前に本児が二重ロックを解除した場面は確認されていなかった。両親によると、ハンドルは本児の力でも操作できる可能性があるものであり、スライド式ロックも触っていて容易に解除できるものである（転落前に解除してあったかどうかは不明）とのことであった。
発生状況	発生場所	自宅アパート 2 階のリビング角の縦滑り出し窓。（図 1、2 参照）
	周囲の人 周囲の環境	母は寝室で寝ていた。父は入浴中だった。
	発生年月日	2024 年 11 月 X 日（水） 午後 9 時 50 分
	発生時の 詳しい様子 受診までの経緯	両親と本児でアパートの 2 階に在宅しており、寝室で母が本児の寝かしつけをしていたところ母が先に寝てしまった。父は入浴中だった。午後 9 時 50 分ごろ、外から泣き声がすることに母が気づき、2 階のリビングの開いた窓から下を覗いたところ、玄関の前（コンクリートの床）で本児がうつぶせになって泣いていたため救急要請した。

医療機関受診時以降の治療経過 転帰	医療機関搬送時、啼泣しており左前額部に 2×3cm 程度の打撲痕と擦過傷（図 3）があり、左眼窩の腫脹と血腫を認め、左の開眼は困難であった。体幹部や四肢に打撲痕は認めず、四肢は問題なく動かしていた。全身 CT を撮影したところ、左脳挫傷、気脳症、左前頭骨骨折、眼窩骨折を認めた（図 4）。形成外科、脳神経外科も併診し、緊急手術による介入は不要という判断で、経過観察入院となった。X+1 日に眼科の診察が行われたが、明らかな左視神経損傷はなく、形態覚遮蔽弱視予防のために開眼を励行しながら経過を見る方針となった。X+2 日、右眼瞼腫脹も見られるようになってきた。X+3 日、左開眼が徐々に可能になってきた。X+5 日、右眼瞼腫脹は消退し、左眼瞼腫脹も改善傾向で半分程度開眼可能になり、全身状態も良好であることから同日退院とし、外来で経過フォローの方針とした。X+13 日の外来受診時は、機嫌よく顔色良好で、両眼瞼腫脹は軽度残存するものの、両側普段通りに開眼できるようになっていた。同日の眼科診察では視力検査（ハンドル検査、ドットカード検査）は児の協力を得られなかったものの、眼位正常、眼球運動障害なし、追視良好という結果であった。X+89 日の外来受診時には、皮膚の外傷部の痕も消失しており、全身状態良好であった。眼科は視力検査での客観的な評価が困難であることから有事再診となった。
キーワード	墜落、転落、窓、頭部外傷、顔面外傷

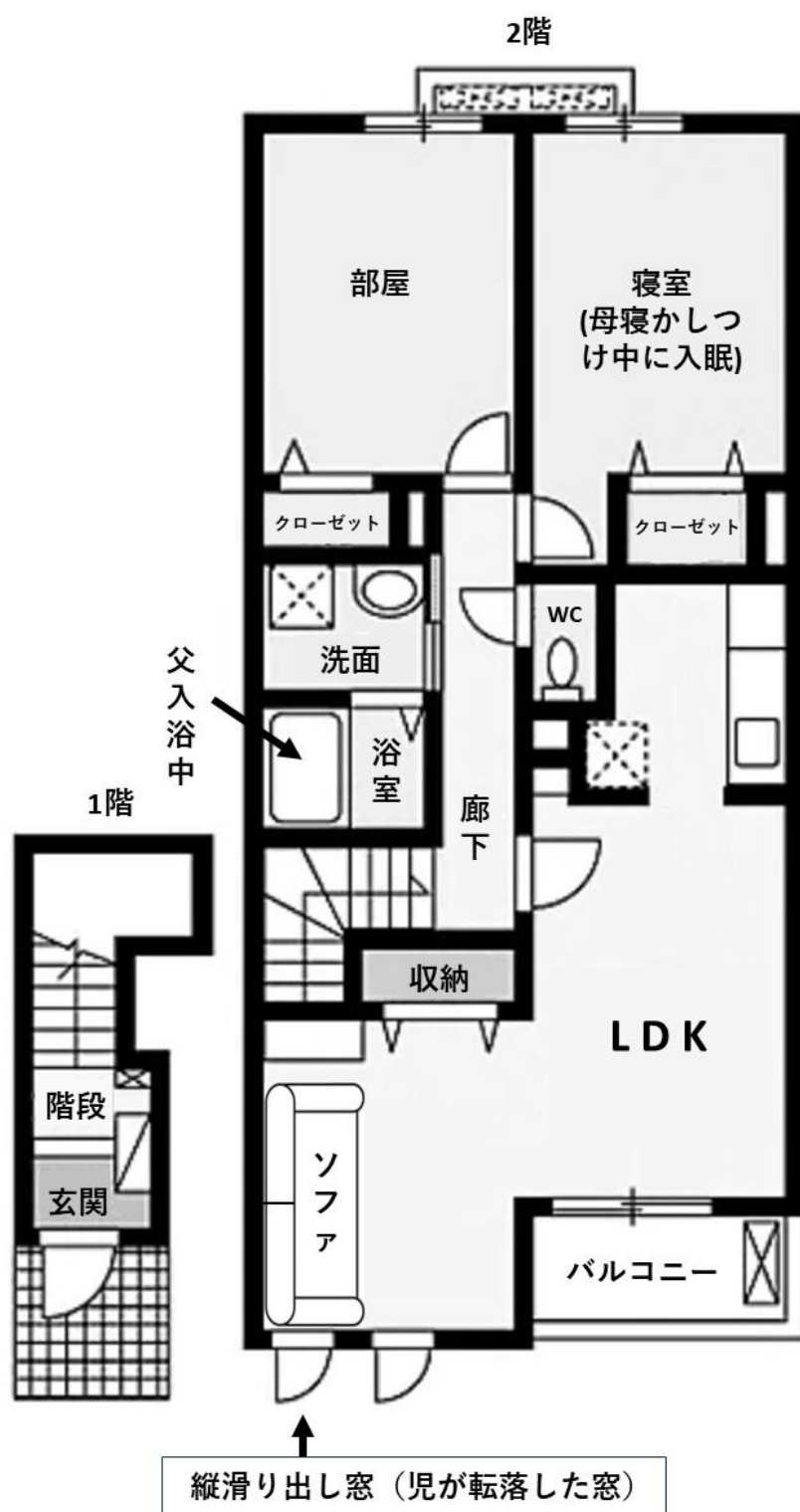
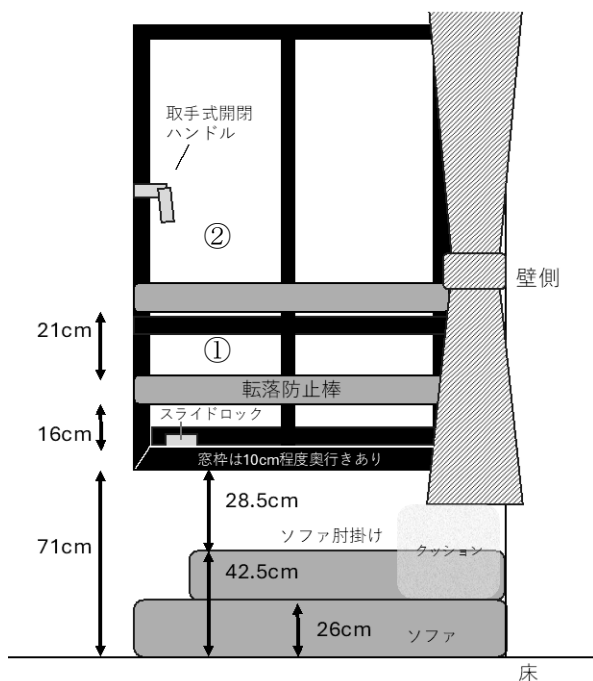
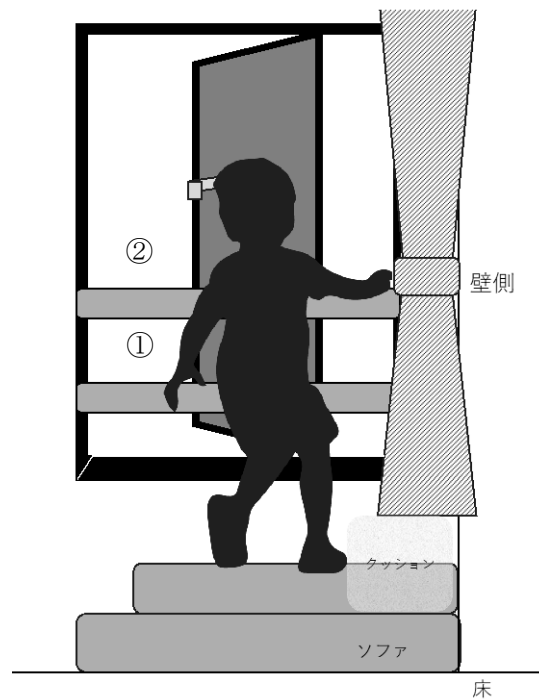


図1) 事故当時の自宅内の様子



滑り出し窓が閉まっている状態



滑り出し窓が開いている状態

図 2) 縦滑り出し窓の開閉と周囲の様子

保護者の話では「棒と棒の間①のスペースは体をねじ込ませないと入らないため、おそらく棒の上である②の部分から転落したのではないか」とのことであった。



図 3) 入院翌日の児の顔面

左眼窩周囲の腫脹や血腫、前額部や左頬に擦過傷を認める。

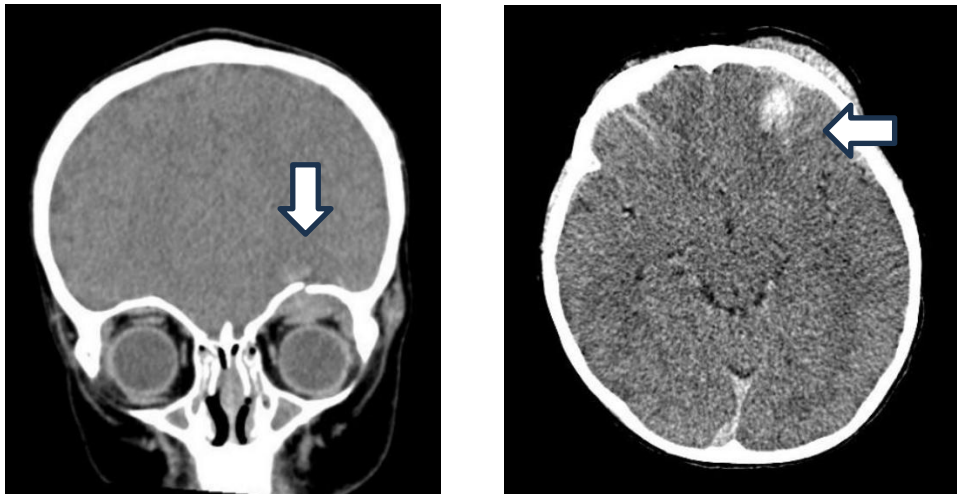


図 4) 医療機関搬送時の頭部 CT

左眼瞼部に血腫を認め、左眼球が圧排されている。左眼窩上壁骨折（↓）を伴い、血腫が左上直筋を下方へ圧排している。また、左前頭葉に出血性脳挫傷（←）を認め、さらに頭蓋内には小さな気腫が複数認められる。